様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１２５４

研究課題名（和文）アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究

研究課題名（英文）Typological Studies on Passive Constructions in African Languages

研究代表者
小森　淳子（Komori, Junko）

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：１０３７６８２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、アフリカの諸言語において、いわゆる「受動態」がどのように表されるかという観点から、受動構文・動詞の受動形に関する形態、統語構造を記述して分析し、地域的、系統的、類型的、通時的な特徴について明らかにした。アフリカの諸言語のデータは、文献資料と海外実地調査から収集し、また研究分担者の専門であるインドネシア語を対照研究の対象とした。
　海外実地調査を行ってデータを収集した言語には、バントゥ諸語のスワヒリ語、ルワンダ語、ガンダ語、ヘレロ語、ニハ語、また西アフリカのヨルバ語、バンバラ語、アカン語、ハウサ語、また南スーダンのジュバ・アラビア語やナイル・サハラ語族の諸言語である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
いわゆる「受動態」（passive）については、記述言語学の中心的な項目の一つであるが、近年は類型論的な研究の対象にもなっている。動詞の形態変化が豊富で、典型的な受動形をもつ言語のみならず、形態変化に乏しく、受動形をもたないような言語も含めて、通言語的な類型論の対象として「受動態」を見るには、アフリカ諸言語のデータがさまざまな示唆を与えてくれる。バントゥ諸語のように、形態変化が豊富で受動形の派生動詞をもつ言語から西アフリカの孤立語的形態をもち「受動態」が見られないような言語を広く比較、対照することによって、通言語的な「受動態」に関する知見を深めることができた。

研究成果の概要（英文）：　This study describes the morphological and syntactic structure of passive constructions and passive forms of verbs from the viewpoint of how the so-called "passive" is expressed in African languages. We tryed to clarify their regional distributions and their typological and diachronical characteristics.
　Data on African languages were collected from overseas field surveys and a literature review. We also use the data on Indonesian, the research member's specialty, for the contrastive study.The languages for which data were collected from overseas fieldwork include the Bantu languages: Swahili, Rwandan, Gandan, Herero, and Niha, the West African languages: Bambara, Akan, and Hausa, and the Juba Arabic and Nile Saharan languages of South Sudan.

研究分野：アフリカ言語学

キーワード：受動態　受動形動詞　ニジェール・コンゴ語族　バントゥ諸語　ナイル・サハラ語族　アラビア語系クレオール

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

アフリカ諸言語の文法構造の解明にとって「受動態」は重要なポイントであり、また、その地域的な特徴と、普遍的な特徴を明らかにすることは、言語学一般の「受動態」に関する類型論的知見を深めることにつながる。その学術的背景には、**1)**「受動態」に関する類型論的研究の進展と、**2)** アフリカの諸言語の形態統語構造に関する記述研究、類型論的研究の発展がある。

1）「受動態」に関する類型論的研究

近年の「受動態」に対する関心は、動詞の形態変化が豊富で、典型的な受動形をもつ言語の個別研究のみならず、形態変化に乏しく受動形をもたないような言語も含めての、通言語的な類型論的研究に向かっている（Keenan 1985, Shibatani (ed.) 1988, Siewierska 2013 他）。典型的な受動態とは、**i)** 対になる能動態 **(active)** があり、**ii)** 能動態の動詞に形態的な変化が見られ、**iii)** 能動態の目的語（動作対象）が昇格して主語になり、**iv)** 能動態の主語（動作主）が降格して斜格名詞句になるか削除される、という特徴をもつ。アフリカの言語では、典型的な受動態の例を、**(1)** のスワヒリ語（バントゥ諸語）にみることができる。

(1) Mtoto　a-li-pig-w-a　na　baba　「子供がお父さんに殴られた」
　子供　3s-PST-殴る-PASS-E　by　父

「お父さんが子供を殴った」という能動態の他動詞文が対にあり、動詞 **-pig-**「殴る」が受動接辞 **(-w-)** によって形態変化し、動作対象（子供）が主語に昇格し、動作主（父）が主語から斜格名詞句に降格している。バントゥ諸語は膠着的な形態構造を持つことで有名であり、動詞が受動形になるような、典型的な受動態のプロトタイプを示している。

プロトタイプによる類型論では、上記の **i) - iv)** の特徴のうち、どの特徴をどのような形式で持っているかという観点から、当該言語の受動態について論じることができる。たとえば、動作対象が主語に昇格するが、動詞に形態変化がみられない例は、**ii)** の特徴がないタイプとみることができる。マリのバンバラ語（ニジェール・コンゴ語族、マンデ語派）では、**(2b)** の例のように、動詞の形態変化なしで、動作対象が主語になり、受動の意味が表される。

(2)a.　Dònso　bɛ́　jàra　fàga　（能動文）　「猟師がライオンを殺す」
　猟師　PRES　ライオン　殺す

b.　Jàra　bɛ́　fàga　dònso　fɛ̀　（受動文）　「ライオンが猟師に殺される」
　ライオン　PRES　殺す　猟師　by

また、いわゆる「非人称受動文」（impersonal passive）は、動作対象が主語に昇格しないという点において、プロトタイプから外れる受動態である。アフリカにおける非人称受動文は、動詞が形態変化せず、動作対象は目的語のままで、主語が不定人称代名詞（多くの場合、**3** 人称複数の代名詞）になる。たとえば、ナイジェリアのヨルバ語（ニジェール・コンゴ語族、ベヌエ・コンゴ語派）では、**(3)** のように、能動文と同じ構文で、主語が不定人称代名詞になることで、受動の意味が表される。

(3) Wọ́n pa olè náà 「その泥棒は殺された」
IMPS 殺す 泥棒 その

このように、典型的な受動態の特徴をどの程度もっているかという観点のプロトタイプ的分析を通じて、個別言語の受動態の特徴や、地域の分布からみえる類型論的特徴、また受動態をめぐる文法化や再分析など、通時的な特徴を明らかにすることができる。アフリカの諸言語は受動態の形態において多様な類型を示しており、受動態に焦点を当てることが、アフリカ諸言語の文法構造の類型的な特徴と、通時的な変遷の解明にとって重要である。

また、再帰や相互、自発、可能、尊敬などを表す文との関係から、受動態に関する形態統語構造の類型論的研究が進められており（Shibatani 1985）、この点についても、アフリカの諸言語において研究する余地が大いに残されている。

Keenan, E. (1985) “Passive in the world’s languages,” in Shopen,T. (ed.) *Language Typology and Syntactic Description*, Vol.1, 243-281, Cambridge UP. / Shibatani, M. (1985) “Passives and related constructions: A prototype analysis,” *Language* 61, 821-848. / Shibatani, M. (ed.) (1988) *Passive and Voice*, J.Benjamins. / Siewierska, A. (2013) “Passive Constructions,” in Dryer, M.S. & M. Haspelmath (eds.) *The World Atlas of Language Structures Online*, Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology.

2）アフリカ諸言語の類型論的研究

アフリカには 2000 を数える言語があるが、それらは伝統的に、ニジェール・コンゴ語族、ナイル・サハラ語族、アフロアジア語族、コイサン語族の 4 つに大きく分類されている。本研究ではこの中でも、サハラ以南アフリカのほぼ全域に分布し、全体の 3 分の 2 の言語が入るニジェール・コンゴ語族の諸言語とその周辺の言語を研究対象とする。

ニジェール・コンゴ語族には、下位グループとして、東・南アフリカに分布するバントゥ諸語が含まれている。バントゥ諸語は典型的な膠着型の言語で、多くの動詞派生接辞をもち、形態変化が豊富である。一方、西アフリカの言語は、ヨルバ語やバンバラ語の例からも分かるように、形態変化が乏しく、孤立語的である。ニジェール・コンゴ語族全体をみると、その類型は、最も膠着的なタイプから最も孤立的なタイプまで多様性に富んでおり、また、形態統語構造の特徴は、地域や下位分類をまたいで多様な連続体をなしている。

ニジェール・コンゴ語族の多様性を類型的にとらえようという試みは、これまでにもさまざまになされてきた（Welmers 1973, Heine & Reh 1984, Bendor-Samuel (ed.) 1989, Heine & Nurse (eds.) 2000 他）。しかし、これらの類型論的研究は、さまざまな形態、統語に関する特徴について広く概観するものであり、個別の形態、統語特徴に絞って深く考察するものではない。本研究は、この点を補うべく、受動態に絞って研究を深めようという試みである。

バントゥ諸語については近年、その類似性の中にある多様性、相違性に注目した研究が盛んに行われている。特に、形態や統語に関する一つ一つの特徴について、100 を超えるパラメターを設定し、各言語がどのような形式を示すかをマークして、その地理的、通時的な分析をおこなう、いわゆる「マイクロバリエーション」プロジェクトが、SOAS の研究者を中心にすすめられている（Marten et al. 2007 他）。パラメターには受動態に関するものがあり、受動態に関する動詞の形態や統語的な記述と分析が、さまざまなバントゥ諸語を対象に進んでいる（Kula & Marten 2010, Bostoen & Mundeke 2011 他）。

このようにバントゥ諸語では、これまでの個別言語の記述の蓄積から、特定の形態、統語特徴についての通言語的、類型的な研究が進められている。バントゥ諸語の研究者と連携しながら、さらに広い範囲の言語を対象に受動態に関する研究を行うことで、ニジェール・コンゴ語族と、周辺の関係する諸言語の地理的、類型的特徴と、通時的な変化について明らかにすることができると考える。

Bendor-Samuel, J. (ed.) (1989) *The Niger-Congo Languages*, Lanham: UP of America. / Bostoen, K. & L. Mundeke (2011) “Passiveness and inversion in Mbuun (Bantu B87, DRC),” *Studies in Language* 35:1, 72-111, J. Benjamins. / Heine, B. & D. Nurse (eds.) (2000) *African Languages: An Introduction*, Cambridge UP. / Heine, B. & M. Reh (1984) *Grammaticalization and Reanalysis in African Lang*uages, Hamburg : H. Buske. / Kula, N. & L. Marten (2010) “Argument structure and agency in Bemba passives,” in Legère, K. & C. Thornell (eds.) *Bantu Languages: Analyses, Description and Theory*, 115-130, Köln: Rüdiger K.V. / Marten, L. Kula, N. Thwala, N. (2007) “Parameters of Morphosyntactic Variation in Bantu,” *Transactions of the Philological Society* 105: 1-86./ Welmers, W. E. (1973) *African Language Structures*, Berkeley: U.C.P.

２．研究の目的

本研究の目的は、ニジェール・コンゴ語族とその周辺の諸言語において、「受動態」に関する形態統語構造がどのように表示されるか、どのような地域的、類型的、通時的な特徴がみられるのか、ということを明らかにすることである。その上で、アフリカ以外の地域の言語との対照研究も加えて、言語学の一般的な見地からみて、アフリカの受動態がどのような点で特徴的であるのか、地域的な特徴と、普遍的な特徴の解明を試みることである。

３．研究の方法

本研究ではまず、バントゥ諸語の記述調査を行い、受動態の地域的な類型を明らかにする。バントゥ諸語の中でも、典型的な受動形をもたない言語があり、そこでは非人称受動文の発達がみられ、さらにバンバラ語の例でみたような、動詞の形態変化なしで動作対象が主語になる形式もみられる。動詞の形態に加えて、動作主や動作対象の名詞句がどのような形式で表示されるかという類型的特徴を分析して、バントゥ諸語全体の分布と通時的な変遷を明らかにする。バントゥ諸語については、研究代表者と研究分担者の米田信子が担当する。米田はイギリスの SOAS をはじめとする海外のバントゥ諸語研究者と共同研究を行っているので、海外の研究者との連携やワークショップやシンポジウムの開催などの役割を担う。さらに、研究協力者を海外調査に派遣して、未調査のバントゥ諸語のデータ収集を行う。

バントゥ諸語以外の言語についても同様に、海外調査と文献から得られるデータから、動詞の形態と名詞句の統語役割を中心に記述し、その分布と通時的な変遷を分析する。研究代表者はヨルバ語、バンバラ語に加えて、文献データの得られる西アフリカ諸語を重点的に調査し、西アフリカの諸言語における受動態の分布と類型を明らかにする。研究分担者の仲尾周一郎は、アラビア語系クレオール諸語と、その近隣言語のナイル・サハラ語族の諸言語を現地調査し、受動態に関する動詞形態の記述と、接触の影響、文法化の通時的な変遷を明らかにする。また、研究協力者を海外調査に派遣して、ナイル・サハラ語族のカヌリ語やチャド語派のハウサ語などの調査を行い、近隣言語との類似性や相違性を明らかにする。対照研究を行うインドネシア語については、研究分担者の原真由子が現地調査を行い、「動作対象フォーカス」の構文について、特に意味的、語用的な特徴に焦点を当てて分析する。アフリカの諸言語と対照研究を行い、「受動態」の地域的な特徴と普遍性について考察を深める。

４．研究成果

本研究では、アフリカの諸言語において、いわゆる「受動態」がどのように表されるかという観点から、受動構文・動詞の受動形に関する形態、統語構造を記述して分析し、地域的、系統的、類型的、通時的な特徴について明らかにした。アフリカの諸言語のデータは、文献資料と海外実地調査から収集し、また研究分担者の専門であるインドネシア語を対照研究の対象とした。

2019 年度は、タンザニア、ウガンダ、マリへの渡航して海外調査をおこない、スワヒリ語諸方言変種、ガンダ語、バンバラ語の記述調査をおこなってデータを収集した。また、研究会を 2 回おこない（2019 年 11 月 21 日：発表題「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」（小森淳子）、発表題「インド ネシア語の受動文」（原真由子）、2020 年 1 月 23 日：発表題「ベルタ語、ベニシャングル・アラビア語、ジュバ・アラビア語と受動に相当する諸構文」（仲尾周一郎））、それぞれのデータを分析し、受動構文の類型的特徴について明らかにした。

2020 年度、2021 年度は、予期せぬコロナ禍のためまったく海外調査ができず、文献資料からのデータ収集に努めた。調査対象とした言語は、西アフリカのニジェール・コンゴ語族に属するウォロフ語、バンバラ語、同じくニジェール・コンゴ語族に属するバントゥ諸語（スワヒリ語の諸方言変種）であり、受動形動詞の類型的特徴、また受動構文の特徴について分析した。さらに、これまでの記述蓄積のあるベルタ語やベニシャングル・アラビア語、ジュバ・アラビア語、インドネシア語の受動態について比較、対照研究を行った。日本アフリカ学会第 57 回学術大会（2020 年 5 月）にて「受動文の類型－ニジェール・コンゴ語族の中のバントゥ諸語の特徴」（小森淳子）と「バントゥ諸語のマイクロバリエーション研究とは」（米田信子）の発表をおこなった。

2022 年度は、海外調査を再開することができ、タンザニア、ルワンダ、ナミビア、ガーナに研究分担者や研究協力者が渡航し、スワヒリ語の諸方言変種、ニハ語、ルワンダ語、ヘレロ語、ハウサ語、アカン語などの記述調査をおこない、それぞれの言語における受動形動詞や受動態について記述、分析をおこなった。また、ロンドンやオックスフォードの博物館や図書館におもむいて文献資料の調査をおこない、20 世紀初頭の東部アフリカにおけるアラビア語変種やバントゥ系ピジン、ナイル・サハラ諸語とそれらが使用された社会に関する資料収集をおこない、分析をおこなった。

バントゥ諸語については、アフリカでの現地調査や文献資料から、多くの有意義なデータを収集することができ、動詞の形態および派生形のバリエーションについて、その多様性を記述することができた。バントゥ諸語については、全般的に受動態を表すのに受動形が生産的に用いられるケースは衰退していることが明らかになった。そのかわりに、非人称受動構文が発達してきており、特に北部、西部地域のバントゥ諸語の顕著である。非人称受動構文はニジェール・コンゴ語族の諸言語に広くみられる構文であり、アフリカ諸語の顕著な特徴の一つということができる。また、非人称受動構文もなく、動詞の自他交替によって「受動文」に相当する文が表される例が、ニジェール・コンゴ語族のマンデ語派とグル語派に見られ、動詞の派生によらない自他交替、あるいは「受動文」に相当する文の表現形式についての考察が進められた。動詞が形態変化なしで自他交替や態を変換することについて、アフリカの諸言語はさらに有益な示唆を与えてくれるものと考えられるが、この点については、本研究にて十分明らかにすることができなかったので、次に続く科研費のプロジェクトに受け継ぐ課題としたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　17件／うち国際共著　5件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Nakao, Shuichiro	４．巻 -
２．論文標題 [+constrict glottis] reflexes of t and q in contact situations: Contact-induced change or inheritance?	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Guram Chikovani & Zviad Tskhvediani (eds.) Studies on Arabic dialectology and sociolinguistics: Proceedings of the 13th AIDA International Conference. Kutaisi: Akaki Tsereteli State University.	６．最初と最後の頁 387-396
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 仲尾　周一郎	４．巻 -
２．論文標題 地域ごとの言語と文字（アラブ）	５．発行年 2023年
３．雑誌名 イスラーム文化事典編集委員会編 『イスラーム文化事典』丸善出版	６．最初と最後の頁 300-301
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 仲尾　周一郎	４．巻 -
２．論文標題 社会言語学（中級）：アラビア語ピジン・クレオール研究	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本言語学会 『日本言語学会夏期講座 2022 Seminar Handbook』	６．最初と最後の頁 204-233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 米田　信子	４．巻 18
２．論文標題 歴史言語学から見るバントゥ系民族の移動	５．発行年 2022年
３．雑誌名 アフリカ諸地域 ： ～二〇世紀 （岩波講座 世界歴史 第18巻）	６．最初と最後の頁 201-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yoneda, Nobuko	4．巻 8 (2)
2．論文標題 Noncausal/causal verb alternations in Swahili.	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Linguistique et Langues Africaines.	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/lla.4561	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 森山幹弘、原真由子、降幡正志	4．巻 28
2．論文標題 コーパスデータを用いたインドネシア語応用教材の開発における課題	5．発行年 2022年
3．雑誌名 インドネシア　言語と文化	6．最初と最後の頁 105-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 原　真由子	4．巻 6
2．論文標題 インドネシア・バリ州における法令に見られるバリ語政策の方向性	5．発行年 2023年
3．雑誌名 外国語教育のフロンティア	6．最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/91030	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小森　淳子	4．巻 6
2．論文標題 マイナー言語を半期だけ教える時に教える10のこと ： バンバラ語を学ぶ学生のための類型論	5．発行年 2023年
3．雑誌名 外国語教育のフロンティア	6．最初と最後の頁 175-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/91037	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小森　淳子	4．巻 33
2．論文標題 スワヒリ語の不定詞による名詞修飾について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 スワヒリ＆アフリカ研究	6．最初と最後の頁 41-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/87074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 仲尾　周一郎	4．巻 9（2020）
2．論文標題 ベニシャングル・アラビア語の民話テクスト	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6．最初と最後の頁 27-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakao, Shuichiro	4．巻 1
2．論文標題 Sub-grouping of Nilo-Saharan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics I: Stop Series. (Hiroyuki Suzuki & Mitsuaki Endo eds.) : ILCAA.	6．最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakao, Shuichiro	4．巻 2
2．論文標題 Grammatical relations in Nilo-Saharan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics II: Grammatical Relations. (Satoko Shirai & Mitsuaki Endo eds.): ILCAA.	6．最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 仲尾　周一郎	4．巻 5
2．論文標題 日本語の「のだ」とアラビア語 'inna	5．発行年 2022年
3．雑誌名 外国語教育のフロンティア	6．最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米田　信子	4．巻 2
2．論文標題 バントゥ諸語の参照文法書 ―バントゥ諸語研究における参照文法書の位置づけ	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『参照文法書研究』(アジア・アフリカ言語文化研究 別冊2)	6．最初と最後の頁 213-255
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小森　淳子	4．巻 0
2．論文標題 バンバラ語の声調－語の声調パターンと自律分節的声調付与－	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『アフリカ諸語の声調・アクセント』（梶茂樹編）	6．最初と最後の頁 27-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 仲尾　周一郎	4．巻 0
2．論文標題 ジュバ・アラビア語におけるトーンのふるまい	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『アフリカ諸語の声調・アクセント』（梶茂樹編）	6．最初と最後の頁 67-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米田　信子	4．巻 0
2．論文標題 ヘレロ語の名詞の声調（Bantu R31）	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『アフリカ諸語の声調・アクセント』（梶茂樹編）	6．最初と最後の頁 279-301
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakao, Shuichiro	4．巻 0
2．論文標題 Convivial Multilingualism as a Modern African Ethos: Cases of East African Non-Arab Arabophone Societies	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Keiko Takemura & Francis B. Nyamnjoh (eds.) Dynamism in African Languages and Literature: Towards Conceptualisation of African Potentials. Bamenda: Langaa RPCIG.	6．最初と最後の頁 19-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 米田信子	4．巻 0
2．論文標題 スワヒリ語における「関係節」と体言化	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『体言化理論と言語分析』（鄭聖汝，柴谷方良編）	6．最初と最後の頁 429-458
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakao, Shuichiro	4．巻 8
2．論文標題 Fundamental Dialogues in Berta/Funj	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6．最初と最後の頁 22-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Furumoto, Makoto	4．巻 26
2．論文標題 *-Mala 'finish' derived perfect(ive) prefixes in Unguja dialects of Swahili	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Swahili Forum	6．最初と最後の頁 60-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Kutsukake, Sayaka and Nobuko Yoneda	4．巻 26
2．論文標題 Contact-induced language divergence and convergence in Tanzania: Forming new varieties as language maintenance.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Swahili Forum	6．最初と最後の頁 189-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 仲尾周一郎	4．巻 3
2．論文標題 アラビア語における動詞連続―言語類型論的視点の外国語教育への応用試論	5．発行年 2019年
3．雑誌名 外国語教育のフロンティア	6．最初と最後の頁 265-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/75640	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計23件（うち招待講演　4件／うち国際学会　9件）

1．発表者名 仲尾　周一郎
2．発表標題 バリ語における示差的目的語標示－有標性パラドクスと脱逆受動化
3．学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4．発表年 2022年

１．発表者名 Nakao, Shuichiro
２．発表標題 System of ‘Sibling’ terms in Nilo-Saharan
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：アジア・アフリカ地理言語学研究 2022年度 第1回研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 仲尾　周一郎
２．発表標題 規範を記述する：ジュバ・アラビア語談話におけるメタ言語活動を例に
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開 2022年度第1回研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Nakao, Shuichiro
２．発表標題 Benishangul Arabic: An indigenous variety of Arabic in Ethiopia
３．学会等名 Workshop on Descriptive studies of Ethiopian languages
４．発表年 2022年

１．発表者名 Nakao, Shuichiro
２．発表標題 Numeral systems in Nilo-Saharan
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：アジア・アフリカ地理言語学研究 2022年度 第2回研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yoneda, Nobuko
２．発表標題 Subject properties in Bantu Languages.
３．学会等名 International workshop of ILCAA-BantUGent Joint research project: The Past and Present of Bantu Languages: Integrating Micro-Typology, Historical-Comparative Linguistics and Lexicography（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yoneda, Nobuko
２．発表標題 Degrees of definiteness in Swahili locative constructions.
３．学会等名 The 9th International Conference on Bantu Languages.（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Hara, Mayuko
２．発表標題 Honorifics’ of the Bali Aga dialect in the domain of religion
３．学会等名 nternational Conference on Languages and Arts across Cultures 2022（於ガネーシャ教育大学（ハイブリッド開催）・基調講演）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 原　真由子
２．発表標題 インドネシア語の二重目的語構文の運用
３．学会等名 OSIP記念フォーラム（於OBPアカデミア・基調講演）（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小森　淳子
２．発表標題 バンバラ語の類型的特徴
３．学会等名 AA研共同研究課題「多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開」2022年度第2回研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Nakao, Shuichiro
２．発表標題 Convivial multilingualism as a modern African ethos: cases of East African non-Arab Arabophone societies
３．学会等名 Institutskolloquium Sommersemester 2021, Institut fur Ethnologie und Afrikastudien (ifeas) at Mainz University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 仲尾　周一郎
２．発表標題 エチオピア周辺地域のナイル・サハラ諸語：音韻・統語・語彙的地域特徴
３．学会等名 エチオピア諸語研究会 2021年度第1回研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yoneda, Nobuko
２．発表標題 Non-locative uses of Locative enclitics in Herero (R31)
３．学会等名 The 8th International conference on Bantu Languages （エセックス大学、英国、オンライン）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yoneda, Nobuko
２．発表標題 Inchoative-Causative verb alternations in Swahili
３．学会等名 The 10th World Congress of African Linguistics（ライデン大学、オランダ、オンライン）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 米田　信子
２．発表標題 湯川データ：120を超えるバントゥ諸語の平行的データ
３．学会等名 日本言語学会 第163回大会（オンライン）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小森　淳子
２．発表標題 受動文の類型－ニジェール・コンゴ語族の中のバントゥ諸語の特徴
３．学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 米田　信子
２．発表標題 バントゥ諸語のマイクロバリエーション研究とは？（新しいアフリカ言語研究3：バントゥ諸語のマイクロバリエーション研究）
３．学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 原　真由子
２．発表標題 インドネシア語のとりたて表現
３．学会等名 Prosody and Grammar Festa 5
４．発表年 2021年

１．発表者名 Nakao, Shuichiro
２．発表標題 Swahili influence on Nubi (Arabic creole): An update from Kibera
３．学会等名 Nwe Approaches to the Study of Language and its Social Context in East Africa, Johannes Gutenberg University Mainz（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Furumoto, Makoto
２．発表標題 Language change induced by ‘dialect contact’ in Zanzibar Swahili
３．学会等名 Nwe Approaches to the Study of Language and its Social Context in East Africa, Johannes Gutenberg University Mainz（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Furumoto, Makoto
２．発表標題 A history of Kimakunduchi description
３．学会等名 BARAZA - Swahili studies conference@SOAS（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 原真由子
２．発表標題 インドネシア語の「今でしょ！」：sekarang sajaとsekarang juga
３．学会等名 第２回OSIPフォーラム（OBPアカデミア）
４．発表年 2020年

１．発表者名 仲尾周一郎
２．発表標題 ベルタ語における焦点小辞 ninen
３．学会等名 「係り結び関連現象の通言語的研究に向けて」研究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

１．著者名 庄司博史編	４．発行年 2022年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 409
３．書名 世界の公用語事典（小森淳子：「スワヒリ語」（354-357）、「ヨルバ語」（366-369）担当）	

１．著者名 原　真由子	４．発行年 2020年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 374
３．書名 世界の言語シリーズ14 インドネシア語	

１．著者名 野田尚史、米田信子、原真由子 他16名	４．発行年 2019年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 360
３．書名 日本語と世界の言語のとりたて表現	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	米田　信子 (Yoneda Nobuko) (90352955)	大阪大学・人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授 (14401)	
研究分担者	原　真由子 (Hara Mayuko) (20389563)	大阪大学・人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授 (14401)	
研究分担者	仲尾　周一郎 (Nakao Shuichiro) (10750359)	大阪大学・人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・准教授 (14401)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	古本　真 (Furumoto Makoto)		
研究協力者	角谷　征昭 (Kadoya Masaaki)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	塩田　勝彦 (Shiota Katsuhiko)		
研究協力者	松岡　秀哉 (Matsuoka Shuya)		
研究協力者	竹村　景子 (Takemura Keiko) (20252736)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関